

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105578
法人名	医療法人かざはやくリニック
事業所名	グループホームかざはや
所在地	松山市中西内469番地
自己評価作成日	平成28年2月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年3月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

Dr.、施設長を始め、スタッフは全員、「利用者様が楽しく暮らし易い様」を目標に、その人らしく、最後までホームで過ごして頂ける様、日々努力している。母体が医療機関と言う事もあり、病気や急変時にも速やかに対応でき、安心して過ごして頂ける。また、9名定員と言う規模を活かして、柔軟な対応、小回りのきくホームである。また、地域行事、ホーム行事を通じて、地域の方々との交流も円滑で、地域の一員として迎えてもらっている。しかし、現状に満足せず、日々進化を目指し頑張っています。利用者様の高齢化及び重度化により、中々支援ができ難い事が増え、外出ボランティアさんをお願いする等、少しでも楽しみ事が増えるよう努力したい。

食事前に口腔体操を職員と一緒にやっている。職員は、利用者と同じものを一緒に食べながら「美味しいね」「出汁がいい」と感想を話していた。調査訪問日、利用者は居間で、地域の方にいただいた土筆の袴取りや煮干の頭取りをしていた。誕生日には、ご家族を誘って利用者のお好きなばら寿司、赤飯、ケーキでお祝いをしている。気に入らないことをする利用者があっても、他の利用者がうまく仲に入り、かばったり、褒めたりする場面もあり、職員は、そっと見守り、利用者同士が協力し合ったり、つながりを持って暮らせるよう支援している。利用者の中には、耳が聞こえにくいことを気にして自分から話をしない方がおり、管理者は月に1回、その利用者と一緒に風呂に入ってお話をゆっくり聞いたり、一緒に歌を歌ったりしてかかわっている。ご本人はその日を楽しみにしているようだ。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかざはや

(ユニット名) かざはや

記入者(管理者)  
氏名 西元 静香

評価完了日 28年 2月 20日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 明るく挨拶、地域の一員。共に支え合い、生き生きとしたホーム。(第11回の運営推進会議の場で決定)散歩や、行事等スタッフも、利用者の方も笑顔で挨拶が出来ている。 (外部評価) 管理者は、理念について日々の中で「日々利用者にどれだけ笑っていただけるかを大切に、健康に留意し支援してほしい」と職員に話している。「共に支え合いながら笑い声の聞こえる事業所」を作っていきたいと話していた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(盆踊り・夏祭り)に、利用者様・スタッフ共に継続して参加している。高齢者クラブコーラスにも、引き続き参加できている。また、ホームの行事へお誘いし高齢者クラブの方々や、近隣の住民の方々の参加を頂き、楽しいひと時を持っている。「まもるくんの家」活動では、朝・夕の登下校時の見守りに、通学路に立っている。年末には、注連縄とお餅を毎年届けて下さいます。(地域の秋祭りには、獅子や神輿が来て下さったり、接待に協力する等している) (外部評価) 散歩中には、地域の方からお花や野菜をいただくこともあり、立ち話等をしている。地域の盆踊り大会に利用者も参加したり、高齢者コーラスグループの一員として演芸大会にも出場している。事業所主催の「かざはや観月会」には、地域の方やご家族を含め50名ほどの参加があり、利用者は一緒にカラオケ等を楽しんでいる。毎年、地域の保育所の園児が来てくれており、利用者と一緒に歌ったり、肩をたたいてくれたりする。年末には、高齢者クラブからしめ縄、愛護班からお餅をいただいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、各研修報告や、勉強会「うちの色」「笑いは奇跡の薬」「終末期ケアのあり方」「睡眠について」などを実施した。今後も、継続して行っていく予定。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様には、交替で参加して頂き、思いを拝聴する事が出来ているが、本年度は、家族様の様々な事情により、ご参加頂けてない。ホームでの行事等は、毎回実施と予定を報告している。そこで頂いたご意見などありがたく参考にさせて頂き、サービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、奇数月の最終木曜日、午前中の開催と決めており、案内状を送付し、さらに2～3日前には電話で再度案内をしている。会議時には、事業所からの行事報告や勉強会を行っており、区長からは、地域行事のお知らせがある。演芸大会や愛媛マラソンの応援については、事業所もかわりがあるため会議で話し合っている。管理者は今後、ご家族が参加しやすいように食事会を催したり、勉強会の資料を添付して参加を働きかけたいと話していた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>不安な事や、解らない事があれば、お電話をさせて頂き、アドバイスを頂いている。運営推進会議への参加も頂き、アドバイスや各種提案をいただいている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3ヶ月毎に実施される北条地区グループホーム勉強会に参加している。運営推進会議時には、地域包括支援センター担当者が参加しており、感染症についての注意喚起や学習会の内容に沿った意見やアドバイスがある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>要介護5で全介助の利用様が、体動も激しい上、動きの予測もつきにくく、座位保持も困難で、転落の危険性が高い為、可能な限り1対1で付いているが、他の利用者様との関係構築等もあり、フロアでは車椅子テーブル装着にて、過ごして頂いている。臥床時は転落防止の為、2点柵施行にて対応。(いずれも、御家族に承諾書を頂き、検討会及び記録を残している。行政にも報告済み)</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前は、玄関にセンサーを付けていたが、現在は使用しておらず、職員は玄関付近の様子に注意して、利用者が出かけて行こうとした時には、一緒に出るようにして支援している。居間で、車椅子をテーブルに付けて支援するケースがあったが、拘束時間・方法を含め、月に1回「利用者にとってストレスフリーにつながる支援とは何か」を検討して時間短縮やクッションの使用等、試しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  現在は、見られていない。精神的や言葉での虐待がある事もミーティングで話し合う機会を持っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  意識統一のマニュアルのファイルに資料を綴じ、いつでも見られる様にしている。現在、利用者はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約の際に、充分説明をして、理解・納得いただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  苦情申し立ての窓口や、ご意見箱を設置している事を、ご案内し、面会や、来所の機会にご意見、ご要望を直接お伺いしたり、毎月のお便りにも、いつでも、お気軽にお申し出下さるよう、ご案内している。  (外部評価)  ご家族には、毎月の便り、近況報告、かざはや通信で利用者の様子を報告している。ご家族とは、事業所外でお会いすることもあり、世間話等しながら関係を作っており、意見や要望を出しやすいような雰囲気作りに努めている。ご家族からは「認知症の進行を緩やかに、明るく楽しく生活させてほしい」というような希望が多いようだ。入居間もない時には、ご家族に「夜間でもいつでも納得いくまで面会できる」ことを説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、常に利用者様、スタッフの立場に立って考えて下さり、自由に意見が述べられる環境である。また、管理者も平等に意見を聞く等、努力は惜しまない。	
			(外部評価) 月1回の職員ミーティング時に、意見を出し合ったり、奇数月には職員が順番で担当になり学習会を行っている。今年は認知症介護の10ヶ条に基づき、職員個々が自分自身のケアを振り返りながら事業所が目指すケアをまとめた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、ほぼ毎日ホームに来て、管理者、スタッフの勤務状況を把握し、個々の体調や、精神面のフォローをして下さっている。また、業務に応じた時間外手当の支給や、年1回の昇給、他にスタッフの誕生会や慰労会を実施して下さり、遣り甲斐がある。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外への研修への参加を、快く行かせて下さり、参加費用や、交通費などの支給もある。また、各種資格取得への協力・理解もあり、資格試験費用も事業者が負担してくれる。等、資質向上に力を入れて下さる。また、Drも協力を惜しまれず、スタッフの要望にも快く応じて下さり、ミーティング等での、研修も行って下さる。(スタッフ個々の疑問や興味のある事を、奇数月のミーティングで勉強会として、取り組んでいる)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地元でのサービス調整会議への参加や、地域密着型連絡協議会等への参加で、他のグループホームやその他の施設との交流が持て、意見交換ができる様になっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず、ご利用者ご本人と面接し、状態を拝見すると共に、お話をうかがうようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の思いや、置かれている状況、困り事を安心して相談して頂ける様に、声掛けやコミュニケーションに努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状況により、必要に応じたサービスの提供や、ご紹介を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の得意な分野を把握し、ご本人が生き生きと活躍できる場を提供している。また、一緒に泣いたり笑ったりと、思いを共感する等、関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の状況や、ご本人様との関係性を把握し、最良と思われる方法、関係作りの援助をしている。(家族様との間に入り、帰宅願望や外出等の希望を、叶えられるよう働き掛けている。)</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前に習慣にしていた事や、楽しみ等を継続して頂ける様、援助をしている。(友人との外出、食事会、自宅の草引き、喫茶店、温泉など、その都度、ご友人やご家族、スタッフ等で対応している)</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎年、年賀状を出せるよう支援しており、昨冬にはご家族にクリスマスカードを贈り、「嬉しかった」とお返事があった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の相性等も配慮し、席の位置を工夫したり、適宜スタッフが介入したりと、トラブル回避に努めると共に、一緒にレクリエーションをしたり、いりこを拵えたり、干し柿を作ったりと、1つの事を、一緒に出来るような工夫も行っている。(積極的に、他の利用者さんの話し相手をして下さる利用者様もおられる)	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後の落ち着き先や、その後の近況伺いをお電話させて頂いたり、他施設へご本人の面会に伺ったり、買い物等で、ご家族様にお見かけした時には、お声を掛けさせて頂いて、先方からも声を掛けて頂きやすい様な、関係作りに努めている。また、利用者様が亡くなって、退所した後も変わりなく季節のお野菜を届けて下さる等、交流が続いている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様ご本人がどうしたいか? どう在りたいか? を日々のかかわりの中で傾聴し、把握する事により、ご本人の思いを最優先で、どうすれば可能か? をスタッフ間で考え、可能な限り対応している。(場合によっては、家族様にもお願いしている。) (外部評価) ケアマネジャーが研修を受け、職員全員でICF方式を勉強し、ICF方式を用いて利用者情報を整理している。	今後さらに、利用者個々の思いや暮らし方の希望、意向についての情報を利用者主体の支援につなげてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人にお話を伺うと共に、ご家族様にもお話を伺い、どの様な生活をされていたか、趣味や嗜好品、性格などの把握に努めている。嗜好品は、特に制限せず、アルコール・タバコも可能(時々、ノンアルコールではあるが、夕食時に晩酌していただいている。2名)(週1回来所するパン屋さんからパンを購入する方が居られる)	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 常に、個々の状態を把握し、心身の状況に応じた臨機応変の対応を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) カンファレンスのご案内をし、参加できるご家族には、日程を合わすなどして、ご本人の思い、ご家族様の思いを伺い、ご本人が自分らしく暮らせる事を、一番に考え必要な関係者と、話し合い作成している。ご参加頂けない場合には、事前にご要望等を窺っている。(毎月のミーティング時や、適宜、出勤者でカンファレンスを実施している。)</p> <p>(外部評価) 介護計画作成時のカンファレンスには、1名の利用者と3組のご家族が参加している。遠方のご家族には、FAXや手紙で意見や要望を聞き計画に反映している。計画の見直しは、利用者の状況により、1・3・6ヶ月ごとに行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々、個々の記録を残している。また、ケアプランには、その日のケアポイントにはPを項目に付けて記入するよう指導している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) グループホームと同じ建物に、居宅支援事業所と通所介護があり、適宜交流を行っている。(居宅ケアマネやデイ管理者にも適宜意見を求めている)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域行事や、ホーム行事での交流により、地域住民と利用者様の馴染みの関係作りに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 経営母体が内科クリニックであるが、ご本人ご家族様の希望 を尊重している。また、適切な医療が受けられるよう、適宜 クリニックDrが、他の医療機関を紹介して下さり、紹介状 なども書いてくれている。(歯科などは、随時訪問を依頼で きている)</p> <p>(外部評価) 「母体クリニックで診てもらえる方が安心」という利用者や ご家族は主治医を変更している。母体クリニックの医師や看 護師は、よく訪れて利用者の健康管理を行っている。体調変 化があれば、24時間対応が可能で必要な医療処置を受けられ る。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 現在、スタッフに看護職員はいないが、経営母体のクリニック に、随時連絡し指示を受けている。(週2回はNS往診が ある)必要に応じてNSへ上申し、アドバイスや協力を得ら れている。(階下のデイサービスには、常時NSがあり適宜 協力を得がえられる。)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院した際、利用者の方の面会、洗濯物援助をする等、頻回 に病院を訪れ、NSに状態を聞いたり、適宜、Drからの説 明をうける。また、ホームでの受け入れ態勢や、退院後の生 活の指導なども受け、利用者、家族様に安心して退院でき る様、支援した。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所契約時に、看取りの希望も確認している。また、適切な ケアが出来る様、常にDrと連絡を取り、状態の変化に感じ て、再度家族様の意向を伺い、最適な方針を決めている。ス タッフ間では、送りノートやミーティングを通し、周知徹 底を行っている。(必要に応じて、NSの待機、協力の話し 合いが出来ている)</p> <p>(外部評価) 入居時に終末期のあり方について利用者ご家族に意向を伺う が、さらに段階ごとに方向性を話し合い意向に沿った支援に 取り組んでいる。この2年間では3名の利用者の看取りを支 援した。管理者は「悔いが残らないよう日々のケアを大切 に」と職員に話し、看取りの時期は、事業所に泊まったり直 ぐに駆け付けられるようにして、職員をサポートしている。 利用者が亡くなると、主治医と職員でエンゼルケアを行い見 送っている。ご家族からは「十分してもらった」と感謝の言 葉がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 現在、中々、外部への研修が実施出来ていないが、ホーム内研修は、当番を決め奇数月に勉強会を実施している。(Drへも随時指導、支持を頂いている)	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練には地域住民も参加して下さり、実際に非難の練習や方法を共に見付けている。また、運営推進会議に図り、地域の避難場所の把握や、緊急連絡網へ組み入れて貰う等している。また、地域防災会役員の名簿や、地域の地図等の配布も受けている。(防災会役員に、事業所理事長も加わっている)(避難訓練時に着用する、防災頭巾を多機能に使えるよう工夫し独自に作成した) (外部評価) 避難訓練は、地震・火災・夜間等、想定を替えて実施している。消防署が近く5分程度で到着するため「無理せず、ベランダまで誘導する・介護者も助かることが大事」と指導してもらっている。事業所は、2階部分に位置するため、非常階段を開錠すれば地域の方が駆けつけて誘導・見守りを行ってもらえるようになっている。非常持ち出し用のナップサックは、3つに別けており「救急用具」「家族の連絡先等の書類」「とろみ材やまな板、包丁」等を準備している。事業所の建物は、震度8まで耐える造りであることを地域の方に知らせており、又、職員は地域の防災訓練に参加している。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人を尊重した声掛けが実施できている。(特に排泄面では注意を払っている)記録物は、他の利用者様から見えないように工夫し、申し送りも利用者様から離れた場所で行い、且つ個人の氏名は読み上げないようにしている。 (外部評価) 利用者の中には、耳が聞こえにくいことを気にして自分から話をしない利用者があり、管理者は月に1回、その利用者と一緒に風呂に入ってお話をゆっくり聞いたり、一緒に歌を歌ったりしてかかわっている。ご本人はその日を楽しみにしているようだ。毎週来る移動パン屋でお好きなパンを選んで買う方もある。気に入らないことをする利用者があっても、他の利用者がうまく仲に入り、かばったり、褒めたりする場面もあり、職員は、そっと見守り、利用者同士が協力し合ったり、つながりを持って暮らせるよう支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から、自己決定を促している。例えば朝食は、主食を選べる(パン、米飯、粥)10時の水分は多種用意し、その日の希望を事前に伺っている。また、行事への参加も強制はしない。入浴時の衣類もなるべく本人さんに準備して貰い、入浴も個人の希望を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間に決まりは無く、朝は自由な時間に起きて来られる。(朝食は7時から9時半と幅を持たせている)また、入浴などもその方の状態やペースに応じ、回数がまばらである。(毎日、1日置き、3日に1回など)	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時の衣服が、いつも同じ物にならない様に、タンス内の仕舞い方の工夫や、自己の選択の優先、自力で行えない方の適宜な更衣を配慮している。散髪は、家族様、ご本人様の希望により、美容室経験のスタッフが介助している。(毎日入浴しない利用者様には、2日目には、朝着替えをして頂く等、同じ服装がで過ごす事が無い様に配慮している)	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下拵えを一緒にしたり、季節に応じた食材を使用したり、1日の内に肉、魚類が重複しない様にしたり、好き嫌いを把握して、配膳時に配慮したり、食べたい物を伺って献立に反映させたりしている。また、テーブル拭きや下膳もして頂いている。時には、洗い物もして頂ける。(汁物を、利用者様に作って頂く事もある。)	
			(外部評価) 食事前に口腔体操を職員と一緒にしている。職員は、利用者と同じものを一緒に食べながら「美味しいね」「出汁がいい」と感想を話していた。献立は、利用者の希望を聞きながら立てており、食材は地元の商店等からの配達と、足りない食材があれば利用者と一緒にスーパーに買い物に出かけている。事業所の畑で作った野菜も採り入れている。調査訪問日、利用者は居間で、地域の方にいただいた土筆の袴取りや煮干の頭取りをしていた。希望があれば、蕎麦やラーメン、回転寿司や鯛めしを食べに出かけている。誕生日には、ご家族を誘って利用者のお好きなばら寿司、赤飯、ケーキでお祝いをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎回、食事量をチェックし記録している。また、必要に応じてエンシュア等の高カロリー補助食や、食形態を工夫したりお粥にチーズや卵を入れる等の工夫をしている。また、水分は1,500cc程度確保を目安に、提供したり促したりしている。(夏場は、1,500cc~2,000cc)必要に応じてチェック表も付けている。(個々の状態に応じて、摂取量は臨機応変にしている)	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。利用者の方々も習慣化している。(週2回の義歯消毒を実施している)状態に応じて、ブラッシングのみや、口腔ケア用品のハミングッドや歯磨きシートで対応している)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を付け、個々のペースにあった声掛けや、誘導を行って、なるべくトイレでの排泄ができる様に支援している。(現在は、Pトイレ設置1名、常時オムツ使用1名である。)</p> <p>(外部評価) 利用者の「最後まで自分でトイレに行きたい」気持ちを汲み取り、管理者は、職員に「手を出し過ぎないように、何を支援すれば排泄行動が上手くいくか考えて欲しい」と伝え「ペーパーを渡せば始末できる」「排泄物を流せば自立できる」と個々にサポートが必要な部分を見極めて支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 野菜などの繊維質を、献立に取り入れたり、水分の補給に留意したり、適度な運動をして頂いたり、2.3日に1回はヨーグルトをお出しする等、予防に努めている。また、個々の排便リズムを把握し、便秘が長引かないように配慮している。(便秘気味の利用者さんには、毎日、隔日にヨーグルトを摂取して頂く等、個々に合わせて対応できている。)</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 日曜日以外は入浴があり、希望に応じて、毎日、1日置き、3日に1回など個々に応じた回数となっている。(また、体調等で、続けて入浴できない時は、清拭を行っている。)行事等で、入浴が提供できなかった場合は、日曜日に代替入浴も行っており、週6日の、入浴日を確保できている。(個人的に温泉などへお連れする方もいる。)</p> <p>(外部評価) 個々の要望・体調をみながら入浴を支援しており、利用者により回数にも違いがある。機械浴を利用する方1名を含めて、全員が湯船で温まれるように支援している。嫌がる利用者には、主治医が手をつないで風呂場まで付き添ったり、ご家族に誘ってもらおうと入浴につながるようだ。近くの温泉施設に職員で出かけることもある。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の状態に応じて、午睡や休息の時間を作ったり、日中の活動を心掛け、安眠できる様に配慮している。(冬場では、入浴できない方に希望に応じて足浴を行ったり、夜間、湯たんぽを入れる等している)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の薬状に目を通し、薬の内容を把握するようにしている。服薬内容の変更時には、日誌や送りノート等で、速やかに全スタッフに伝達し、服薬後の状態などの観察や、副作用が強く出たと思える時には、Drへの上申し指示なり、薬変更なりをして頂いている。</p>	
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の得意な分野を把握し、台所仕事や繕い物、洗濯物畳み等を提供し、生活に張りが持てるようにしている。小さな洗濯物干しは、立って出来ない方には、椅子を使用して安全に干して頂く等工夫し、可能な限りの役割を提供できるように努めている。</p>	
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>天候の良いには、近くの神社へお参りに出掛けたり、食材の買出しにスーパーへ一緒したりしているが、30分程度の散歩支援では、スタッフが充分に対応できていない為、外出ボランティアをお願いし、週2日程度だが、1対1での散歩援助を行なっている。今後は、地域にある学校の学生さんなどにも働き掛け、ボランティアの数を増やし、もっと色々な行事を工夫していきたいと、模索中である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>季節ごとにお花を見に出かけたり、初詣等に出かけられるよう支援している。利用者の希望でラーメンを食べに出かけたり、洋服売り場を見に行くこともある。近くの神社をお参りしたり、散歩に出かけているが、今後は、個別の外出にも力を入れて取り組みたいと考えており、現在、地元大学にボランティアを依頼している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>基本的には、ホームでお預かりし、管理している。収支は必ず小遣い帳に記入し、レシートの貼付、2ヶ月毎(奇数月)に締め、ご家族様に確認して頂き、サインか印を頂いている。(欲しい物は自由に購入でき、小額を自分で管理されている方もいる)</p>	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>希望があれば、いつでも電話できる。ご本人がダイヤル出来ない時は、援助している。また、はがきや、手紙など自由に遣り取りできる。(海外に在住の娘さんからの夜間の電話等も、随時取り次いでいる。また、顔を見て会話が楽しめるよう、パソコンにスカイプを導入した)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎月、玄関の壁やカレンダーを、季節に応じて交換したりし、季節のお花を飾ったりしている。時季に応じ、扇風機や加湿器なども出している。光などはカーテンや蛍光灯などで調節している。（トイレトーパーをご自分で交換出来る様、ペーパーホルダーを購入し、設置した）（テレビを2台にし、設置場所を工夫し、他番組でも同時に見られる様にした）（フロアの椅子が大きすぎて、座位が取りにくい方や、腰痛を訴える方に腰楽クッションを設置した）</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間に飾っている七段飾りの雛人形は、利用者と職員で相談しながら飾った。毎月、季節に沿ったちぎり絵作品を仕上げて掲示している。「ひなまつり三人娘 思う母」等と詠んだ利用者の俳句や大きく引き伸ばした利用者の笑顔の写真を掲示しており、来訪したご家族に喜ばれている。ソファーやテーブル席は、利用者の関係性を踏まえ、歩行や車椅子での「暮らしやすさの視点」で検討しており、その都度替えている。中庭では、ご家族や主治医も参加して花見を行ったり、普段でもお茶会を楽しんでいる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>マッサージチェアを利用したり、ソファーで寛がれたりされる。また、エレベーターホールにも椅子を置き、自由に座れる。（入居者の状態に応じフロアのレイアウトを変え、より心地よく過ごして頂ける様工夫している。）</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベッドやタンスはホームでも用意しているが、使い慣れた物で希望があれば、持ち込みは可能である。また、ベッド、タンスの配置は、個々の希望に応じて変更している。寝具は、個人で馴染みの物を用意して頂いている。他に、椅子やミニテーブル、テレビ、扇風機等自由に持って来て頂いている。（居室の豆電球が明るく、気になって眠れないと訴える利用者が居られ、テーブルランプを購入し、ベッド下に置き間接照明にした）（夜間PTトイレ使用者のマットに滑り止めの付いた敷物を敷き、冷たくないように工夫した）</p> <p>(外部評価)</p> <p>どの居室からも田園風景が見えて、窓からの景色を楽しむ方もいる。テレビを見たり、編み物をしてひとりで過ごす時間を持つ方がいる。仏壇を持ち込んでいる利用者には、職員が毎朝水替えをしており、利用者と一緒に手を合わせて支援している。ベッド柵に手作りの防空頭巾を吊るしてあった。和室の居室が1つあり、看取り時には交代してもらって、ご家族と一緒に過ごせるよう支援している。夜間ポータブルトイレを使用する場合は、昼間はクローゼットの下に収納している。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の能力に応じ、出来るだけご自分でして頂き、見守りのみ行い、手を出し過ぎないようにしている。また、建物はバリアフリーになっており、行動を制限しない様にしている。特に、自発的にされた事は静止せず、適宜付き添ったり、見守ったりしている。</p>	